

第 71 回埼玉県美術展覧会 審査評

【第 1 部 日本画】

○ 総評

審査主任 石原 進

令和 5 年、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが季節性インフルエンザと同じ 5 類に移行される中で第 71 回県展が開催されます。今年度、日本画部門の応募総数はコロナ流行の影響もあってか、前年に比べて減少し 145 点でした。そして審査を経て入選は 106 点、入選率にして 73.1%となりました。作品傾向、内容については、例年にない向上が見られるとともに、特に若い人たちの元気溢れる作品が増えてきて新風を感じる思いでした。県展日本画部の明るい兆しを感じます。また、水墨画の応募も増え、喜ばしい限りです。

審査については厳正公正な理念に基づいて行い、一次審査から四次審査において審査員の挙手で入選を決めました。賞は投票の上、厳正中庸に繰り返しディスカッションをして、決定に至りました。なお、優れた作品ながら数に制約があるため、残念ながら賞をつけられなかったものも多くあります。今回展は選外となった方、次回展に捲土重来を期待しております。

終わりに審査主任として特に印象に残ったのは、高齢ながら若い人に負けない意欲的な作品が数多く見られたことです。混沌とする世に芸術文化が力強い役割を果たしていることを強く感じました。

○埼玉県知事賞

「輪廻」 山本 一枝

題名に寄せる作者の気持ちを十分に表した秀作です。夏に元気を与えてくれたであろう向日葵の季節を経て変化する最後の姿と、今咲くガーベラの花の対比が美しく表現されています。

各々をよく観察し、構成に気を配り、伝統を大切に岩絵具と箔を用いた技法で描いています。暗いバックと現代的に表現した向日葵とのコントラストもとても美しく感じられます。

○埼玉県議会議長賞

「時のながれ」 湯川 佳昭

いつか朽ちていく木々。そんな夜の森にやがて虫たちもいざないながら集まります。

木の表現が豊かで美しく、虫たちのまわりがうっすらと明るくなっているところが効果的です。

静かに時が流れる、厳かで雰囲気のある力作になりました。

○埼玉県教育委員会教育長賞

「遠き思い出」 佐藤 千代子

岩絵具を多彩に使った、カラフルで楽しい絵です。沢山の下げ飾りに囲まれた少女は、遠き日の作者でしょうか？

下げ飾りは画面いっぱいもしっかり描かれていますし、上手くバランスが取れていますし、色の調和も美しい作品になったと思います。

○埼玉県美術家協会賞

「あわい」 坂本 真綾

日本画の特色でもある線の美しさや平面的な扱いなどを生かした作品です。色数は少ないですが、互いに働きあってさわやかな雰囲気を醸し出しています。

学生時代の夢多き一日が見る人に伝わってくる優れた作品です。

○埼玉県美術家協会賞

「おうちで夏祭り」 渡辺 恵美子

子どもが大好きなお祭りなどの催しが軒並み中止になる中で保護者は色々な遊びを考案し、楽しむことでコロナ禍を乗り越えてきました。

家庭のベランダでしょうか……ビニールプールに浮かべた色とりどりの風船やボールを掬う子どもたちの表情は、楽しさと少し寂しい気持ちが画面から滲み出ています。

次の夏には縁日も開催されるようにと願う家族の心情が旨く表現されています。

○埼玉新聞社賞

「風舞」 岩渕 知子

それぞれの花々が春の訪れを感じさせるとてもよい作品です。背景を淡い色使いとすることで花々の魅力が強調されています。

これからもますますよい作品を描き続けて、見た人に夢を与えていただきたく思います。

○高校生奨励賞

「静かな共生」 小原 理彩子

自然に生きる動物たちは互いに深い部分で関係し合い、同じ自然という住処に共存し、自由に暮らしながらも、共に寒い冬を乗り越えていきます。人が日常的に我慢やストレスを感じながら生きる「思いやり」の共生とは違って、調和的な「思いやり」であり、「共生」です。

描画力については、高校生とは思えない程の確かな表現となっており、今後も楽しみです。

○埼玉県美術家協会会長賞

「睦^{むつ}む」 森下^{もりした} 博子^{ひろこ}

群れをなして生活するシマウマの親子が、三頭を描いたことで個々のシマウマに漂う温かさが伝わってきます。

動物園とサファリパークのシマウマでは少し違う印象を受けますが、それぞれの特徴を旨く混和させて描かれています。

夕焼けのように表現した背景がサバンナを想像させ、画面の拡がりに繋がっているのも、旨く工夫された作品だと感じました。

○高田誠記念賞

「華^か韻^{いん}」 永井^{ながい} 優子^{ゆうこ}

暗めの色彩を背景にして、明るい色の花の群落（リコリスでしょうか？）を上部に配し、さらに蝶を描き入れた作品です。

明度差が大きいので、ともすると絵が明・暗、二つに分かれがちですが、柔らかく表現されており、全体がよく調和しています。また、花の数、花卉の数が膨大ですが、その構造をよく理解して丁寧に魅力的に表現しています。

作者の豊かな感性と高い表現力を感じ取れる秀作です。